令和３年度第２回　県東地域サイクルツーリズム推進協議会
議事概要

１　日時
令和４(2022)年３月14日（月）　14:00～15:20

２　場所
Ｗｅｂ会議

３　出席者
別紙「出席者名簿」のとおり

４　議事
（１）モデルルートの決定について
（２）走行環境整備方針について
（３）名称の決定方法について
（４）今後の進め方について

５　議事概要
・事務局からモデルルートについて説明し、決定された。
・事務局から走行環境整備方針について説明し、承認された。
・名称案について再度委員内照会することとなった。

６　委員の主な意見
（1）モデルルートの決定について
〇篠原座長
・ルート決定後に、どう歓迎するかを横の連携をしながら議論することが必要。
・ビジネスに繋がり、地元にお金が落ちることを考慮しながら進める必要がある。

〇大森委員（宇都宮大学）
・北、東、南のルートが接続するような動線があるといいのではないか。
事務局回答：連携を検討する。

〇高根沢委員（㈱栃木プロジェクトプロ）
・セグメントについて、土地固有のグルメや、顧客層に合わせたコース設定ができている。

〇若杉委員（那須ブラーゼン／ＮＡＳＰＯ㈱　代理：樋口氏）
・河川サイクリングロードの柵、車止め等を統一して整備することで安全性向上が期待できる。

〇大山委員（上三川町　代理：冨田氏）
・試走により関係者合意形成が取れた。

〇池田委員（益子町　代理：板野氏）
・益子町の取組ではポタリング（自転車での散歩、散策の意）を推奨しており、ライト層に対してイベントを行ってきた。設定されたレベルが一致しており、町の施策

とも整合が取れている。
・ルート決定後の活用として、陶器店等立ち寄り箇所の紹介ができるよう、観光協会のレンタサイクル事業と連携させていきたい。

（２）走行環境整備方針について
〇大森委員
・経路や道路について、現地の案内及びWeb上での情報提供が安全性の観点からも重要。

〇荻原委員（（公社）栃木県観光物産協会　代理：山本氏）
・長距離コースのため、ショートカットに関する案内があってもいいのではないか。
　事務局回答：マップ等により案内を検討する。

〇高根沢委員
・県北地域では整備が進み、自転車受入れ環境が整ったように感じる。

〇若杉委員（代理：樋口氏）
・サイクリングルートではサインがあることで走行空間が認識しやすくなる。
・矢羽根に替わってセンターラインでも住み分けには有効と思われる。

〇高橋委員（宇都宮市　代理：高瀬氏）
・鬼怒川サイクリングロードの幅員が狭く、矢羽根が設置されると圧迫感がある。表示は不要ではないか。
　事務局回答：既存のサインとの整合があるため、個別に協議する。

〇井上委員（宇都宮国道事務所　代理：小屋氏）
・案内看板が規制標識と見た目が類似している。

〇阿久津委員（烏山土木事務所　代理：柳田氏）
・一部狭小区間は待避所が必要と思われる。
　事務局回答：個別協議とする。

（３）名称の決定方法について
〇篠原座長
・名称の前に地域がわかるようなキーワードを付けるとブランディング面で良いのでは。
・県外、海外に向けPRするためには、何をイメージしているか、どのように楽しむか、コース概要と名称が繋がる必要がある。

〇鱒渕委員（観光交流課　代理：奥山氏）
・対外的なPRをしていく中で、その地域の特性が出るようなわかりやすいネーミングが重要。
・どういう特性があるか、県東地域がどういった地域かを伝えられるようなネーミングにするべき。
　事務局回答：改めて名称案を募ることとする。

―以上―